

# 放射線災害医療サマーセミナー2019 活動報告

## 1 概要

---

日程 ; 2019 年 8 月 5 日 (月) ~9 日 (金)

受講者 21 名

## 2 長崎大学参加者

---

講師 : 山下俊一学長特別補佐、松田尚樹教授、高橋純平助教

フィールド引率 : 山田裕美子助教、折田真紀子助教

連絡担当 : 林田直美

## 3 実施報告

---

笹川保健財団・福島県立医科大学・長崎大学が共催で開催している放射線災害医療サマーセミナーが 8 月 5 日 (月) から 9 日 (金) までの 5 日間の日程で開催された。今年度は、全国の看護学部学生、医学部学生、看護系大学院生の 21 名が受講した。セミナーのプログラムは、2 日間の講義・実習およびワークショップ、引き続き 2 日間のフィールド学習、そして最終日はフィールド学習のまとめと発表という内容であった。

8 月 5 日 (月) および 6 日 (火) の 2 日間は、福島県立医科大学で講義・実習とワークショップが行われた。内容は、災害および放射線の基礎や過去の災害について学習し、主に災害時の対応について考えるものであった。長崎大学からは、3 名が講師を務めた。松田教授からは放射線の基礎についての講義があった。講義に引き続き、松田教授には放射線の測定実習も担当していただいた。さらに、高橋助教から「チェルノブイリ原発事故後の 30 年～ベラルーシの対応を中心に～」と題して科学者とは異なる視点での講義があった。2 日目の早朝には山下学長特別補佐より、「未来への遺産—広島・長崎・チェルノブイリから福島復興に向けて—」と題した講義が行われた。

8 月 7 日 (水) および 8 日 (木) はフィールド学習が行われた。7 日の午前中はバスで福島県浜通り地方の被災地を見学し、午後には福島県立医科大学の教員の引率で、福島第二原発を見学した。8 日のフィールド学習では、参加者は川内村、富岡町、飯館村の 3 地域に分かれ、各フィールドで実習を行った。フィールド実習では、長崎大学の山田助教が川内村を、折田助教が富岡町の引率を担当した。林田は、福島県立医科大学の教員が引率する飯館村のフィールドに同行した。

最終日の 8 月 9 日 (金) は福島県立医科大学において、ワークショップ「フィールド学習のまとめと発表」が行われた。このワークショップでは、フィールドで学んだことや感じたことをそれぞれのグループごとにまとめてプレゼンテーションと質疑応答を行った。最後に修了式が行われ、各受講生に修了証が手渡された。

本セミナーは今年度で 6 回目となり、初回からの受講生は 100 名を超えた。これまで受講した修了生のなかには、セミナー参加をきっかけとして、その後大学院へ進み災害関連の研究を行ったり、大学で教鞭をとったり、また、災害や救急医療に関わる部署に勤務したりしている者もいる。セミナーは災害時に対応できる人材の育成に貢献できているのではないかと思われる。次年度以降も引き続き継続して実施されることを望む。

(文責 ; 林田直美)



講義



川内村フィールド実習



富岡町フィールド実習



飯館村フィールド実習



フィールド学習のまとめ



修了式